

マスコミでは報道されない「テロとの戦い」の欺瞞と真実がここにある  
人は人を殺せるようには、できていない。では、どうすれば、普通の若者が戦場  
で人を殺せるようになるのか。サウスカロライナ州パリスアイランド。米海兵隊ブ  
ートキャンプの12週間。毎週、ここに500人～700人の若者たちがやってくる。



# 辺野古を 考える

全国上映キャラバン



あなたも、辺野古を考える全国上映キャラバンに集まろう！！ぜったい辺野古に新基地は  
いらない！！「本土」から声を上げていこう！！

藤本幸久監督は、2004年から沖縄・辺野古でドキュメンタリー映像を撮り続け、昨年8月から全国で上映キャラバンを展開しています。藤本監督は昨年6月、鳩山首相が「最低でも県外」を公約しながら日米共同声明で公約を撤回し、辺野古新基地建設へ回帰し辞任したことで、本土マスコミの報道が無くなったことに怒りました。さっそく藤本監督は軽自動車を購入して上映機材一式を載せたキャラバンカーを仕立て、昨年8月から北海道を出発し、自作6作品を30人以上集まれば、参加費1000円で、全国どこでも上映する全国上映キャラバンを開始しました。「問われているのは、沖縄以外の人々の無関心だ。基地問題は、沖縄以外の人々がその実態を知らなければ解決しない」という強いメッセージが込められています。

1月29日時点で、全国80カ所、6000人の人々が全国上映キャラバンで映画を鑑賞しました。さらに後40カ所上映される予定です。私達も、藤本監督と同じ思いで上映会を行います。

ぜひとも参加をお願いいたします。ぜったいに辺野古に新基地はいらない！！「本土」から声を上げよう！！

## 藤本幸久監督

三重県四日市市に生まれる。早稲田大学政治経済学部在学中より土本典昭監督の下で映画制作に携わる。大学卒業後、土本作品の助監督等を経て1992年に自身の初監督作品「教えられなかった戦争・侵略・マレー半島」を公開。以後、生活拠点を北海道上川郡新得町に移し、森の映画社を設立。夕張の炭鉱閉山をテーマとした作品「闇を掘る」で映画賞などを受賞。また、1996年から新得町で自身が主宰する「Shintoku 空想の森映画祭」を10年以上にわたって開催するなどしている。近年は北海道矢臼別や沖縄県辺野古、韓国梅香里の駐留米軍問題をテーマとした「マリーンズ・ゴーホーム」(2005年)、およびアメリカ海兵隊取材した「アメリカばんざい」(2008年)などの作品を発表している。